

## オオクチバスが生息するため池と生息しないため池の比較

秋田県立由利高等学校 木村青史

オオクチバス *Micropterus salmoides* は北米原産の外来種で、1925年に芦ノ湖に導入されて以来、分布を拡大し、現在では全国各地に定着しており在来種への被害も数多く報告されている。秋田では1982年に確認されて以来、県内全域に分布を広げており、中には在来魚が殆ど見られなくなったため池もある。県内のため池を調査した結果どのようなため池にオオクチバスが生息しているか傾向を見いだすことができ、また、オオクチバスの分布が人為的なものであることが強く示唆されたのでここに報告する。

オオクチバスが生息するため池は、地図に記載され、近くには道路も走っているため、人目につきやすい条件が整っていた。また、樹木帯に囲まれる割合も低いため、釣り人が容易に訪れることができ、竿を振るスペースも十分であった。学校に近いため池に、オオクチバスが分布していたことから、釣り人をターゲットとした密放流があったことが強く示唆される。また、オオクチバスが侵入したため池では魚類相が大きく変化しており、在来種、特に絶滅危惧種への影響が強いことが明らかになった。